

ランドスケープ研究 新連載のお知らせ

本誌 80 巻 2 号からは「復興のランドスケープ」は休載とし、新たな連載として「造園雑誌アーカイブス」「これからのランドスケープの仕事」の 2 本の連載を開始することとしました。本号ではこの 2 つの連載の企画趣旨をお伝えします。

■造園雑誌アーカイブス

日本造園学会は 2025 年に 100 周年を迎える。日本の庭園の歴史とは別に、日比谷公園や明治神宮神苑の築造から始まった造園の歴史には、前号の特集「ランドスケープの仕事」で議論されたように「造園とは何か、ランドスケープとは何か」という我々の存在意義への自問自答が常に存在した。急激な近代化と関東大震災、第二次世界大戦、戦災復興、1964 東京オリンピック、1970 大阪万博、阪神淡路大震災、東日本大震災と、それまでの空間や都市の考え方を考える出来事に対峙するたび、常に繰り返されてきた自問自答である。

日本造園学会は 1925 年の学会設立から 1927 年までの 1 年半に学会誌「造園学雑誌」3 巻計 19 号を発売した。学会誌の発行はその後しばらく休止した後、1934 年に「造園雑誌」に名を改めて復活、1943 年に戦争の影響で一時休刊するまでに 10 巻計 30 号が発行された。この間の学会誌では、都市の中での造園や緑地の位置づけや業界の確立の仕方、教育のあり方など、広範な話題が扱われており、現在の問題意識がすでにほぼ出揃っていると言ってもよい。さらに、それらの議論は熱く行われており、造園学会 100 年の歴史の基礎がこの時代にあると言える。そのため、この時代を今一度俯瞰することは、我々が繰り返している「造園とは何か、ランドスケープとは何か」という自問自答へのヒントになると考える。

一方で、過去の学術論文、雑誌記事を読もうとするとき、インターネットで簡単に検索、閲覧することが可能になり、図書館で厚い製本雑誌をひらき、目次をたどる機会は少なくなかった。本誌も 70 巻 4 号以降がデジタルアーカイブ化され、インターネット上でのアクセスが可能である (2016 年 3 月現在)。インターネットからキーワード検索により

閲覧対象が絞り込まれることは効率的ではあるかもしれないが、その裏で学術研究の分野や対象を広げる機会を逸している。目次をたどっていた時代には、目的の文献の前後の全く関係ない文献も目に入ってきて、時代背景もおのずと知ることができた。目次の構成には、当時の編集担当の問題意識や考え方なども推察でき、探している文献とは全く関係ないが興味をひかれる文献が見つかり、次の研究テーマのヒントとなることもある。

新連載「造園雑誌アーカイブス」は、造園学会 100 周年に向けて、1925 年の造園学会発足から 1943 年という最初の約 20 年の学会誌を一巻ずつ紐解き、当時の視点や論点の一面を切り出ししながら、現在の制度や計画、空間と造園分野の関わりを再考する機会と位置づけたい。

本誌ではこれまでに、上原敬二や北村徳太郎、井下清、長岡安平などの先駆者に注目した「日本のランドスケープアーキテクト (1994 ~ 1997)」, そこから現在をつなぐ「恩師からのバトン (2012 ~ 2015)」の 2 つの連載、学会全体を振り返って俯瞰する特集として、「造園界回顧十年 (1926)」, 「学会 50 年の回顧と展望 (1977)」, 「学会活動の 70 年を振り返って (1995)」が企画されてきた。

新しい連載では、戦前の学会誌を 1 年ごとにとりあげ、その内容を深めることにより、それぞれの時代の感覚を拾い上げていこうと考えている。具体的には、短期間で終了した「造園学雑誌」は、1 年半の間に発行された 19 号を 1 巻分として、「造園雑誌」は 1 巻ごとに担当者が論考を選び、これを読み解いていく。

我々の立ち位置への自問自答も重要であるが、先駆者の考えに改めて触れることの面白さをお伝えできればと思う。
(編集委員 片桐・真田)

■これからのランドスケープの仕事

ランドスケープの仕事の領域が多様化している。1993 年に「ランドスケープアーキテクトに期待する」が学会誌で特集された時は職能の拡大と可能性に期待が集まった。その 10 年後に日本造園学会ランドスケープのしごと刊行委員会により「ランドスケープのしごと」が書籍として刊行された。本書の中では構想・計画・設計・施工・管理のプロセスを意識して自然地从都市内のパブリックスペースの創成まで多岐にわたるランドスケープアーキテクトの職能が具体的なプロジェクトを元に丁寧に整理されている。その約 10 年後の前号では再び「ランドスケープの仕事」が学会誌で特集された。ここでは「ランドスケープ職能のこれまでとこれから」、「ランドスケープの仕事の現状」の二つに関して現場から立ち現れてくる様々な課題について共有されている。

このようにランドスケープの職能は時代の波に乗りながら変化を続けてきた。それではこれから先はどこへ向かっ

て進むべきなのだろうか？中核となるこれまでのランドスケープの仕事に加えて、その周縁部では、そして未来にはどのような仕事の領域の変化が予測されるのか？

気候変動、災害、パブリックスペースのマネジメント、文化遺産、グリーンインフラなど関係領域はますます多様化し、他専門分野とのクロスオーバーが早いスピードで進行している。

本連載「これからのランドスケープの仕事」では、長年かけて積み重ねてきたこれまでのランドスケープのしごとを基盤にして、これから私たちはどのような仕事をつくっていくのか？本連載の趣旨は、多様な分野で領域間の交差点に立ちつつ、未来を俯瞰する研究者や実務家に「ランドスケープのしごと」の未来について執筆頂き、これからの職能の骨格線を見える化することである。

(編集委員 上田・大野・近藤・竹内・福岡)